

産業廃棄物の削減

コーセーは2008年度も、生産部門、物流部門を中心に廃棄物量を削減する努力を続けてきました。単なる廃棄処分を極力避け、可能な限りリサイクルを実施することを基本方針として取り組んでいます。

目標（環境指標）

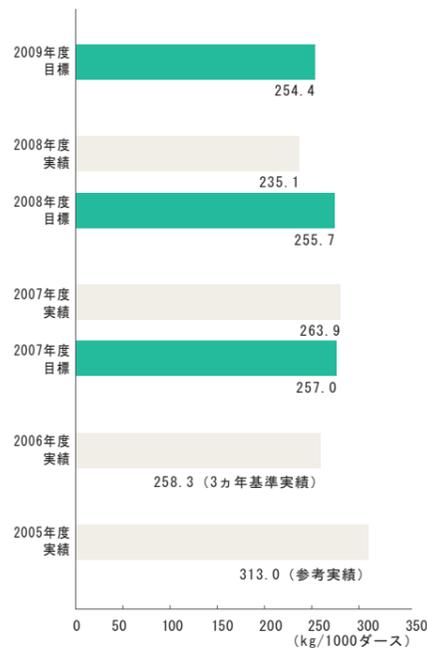
生産段階における産業廃棄物の発生量を、2009年度までに2006年度レベルの98.5%（原単位）にする3ヵ年計画を策定し、単年度0.5%ずつ減らすことを目標として廃棄物発生量の削減を推進します。また、リサイクル率99.5%以上の維持管理を目標としてリサイクル活動を推進します。

2008年度の実績

2008年度目標255.7kg/1000ダース（0.5%）の削減計画に対して、結果は235.1kg/1000ダース（達成率108.8%）となり、目標数値を大幅にクリアすることができました。在庫管理システムの精度向上なども寄与していると考えられますが、2009年度も254.4kg/1000ダースという目標のクリアに向けて取り組んでいきます。リサイクル率はすでに99.5%以上を達成しているため、引き続き、この実績を踏まえて、さらなる廃棄物発生量の削減、リサイクル活動の推進に力を注いでいきます。

産業廃棄物量の現状と今後の目標

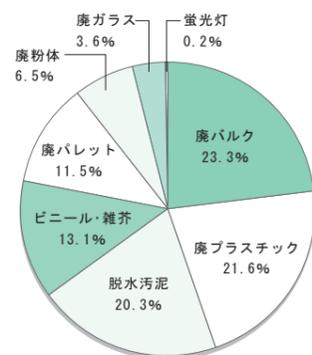
●原単位廃棄物量の推移(kg/1000ダース)



産業廃棄物のうちわけ

狭山工場や群馬工場を中心として、コーセーグループの各生産拠点ではリサイクルの推進に積極的に取り組んでいます。そのため、2000年度から単純廃棄される産業廃棄物の量が大幅に減少し、現在では99.5%以上の産業廃棄物がリサイクル化されています。また、2004年から新たな生産・販売・在庫一貫管理システムを導入したため、準備段階で一時的に廃棄量が増えましたが、2008年度実績から減量効果が出始めました。

●産業廃棄物のうちわけ(狭山事業所の例)



リサイクルの推進

コーセーグループの生産部門では、発生した廃棄物を単に“捨てる”のではなく、再び資源として社会に還元することを目標としたリサイクル活動に力を入れています。基本的な考え方はマテリアルリサイクルを最重点にケミカルリサイクル、サーマルリサイクルも併用し、焼却処理や単純廃棄を極力なくすことにしています。この方針にそって、各職場において分別・回収を徹底し、リサイクル率の向上、廃棄物量の減少に努めています。

2008年度は、生産・在庫・販売の連携体制が進み、廃棄物の発生量そのものが減少しました。また、必要に応じてリサイクル業者の見直しを行い、適正な処理の実施を常に監視しています。

(注)

マテリアルリサイクル：材料をそのまま利用するリサイクル（例えばプラスチックからプラスチックへ、紙から紙へリサイクル）
ケミカルリサイクル：何らかの化学的なプロセスによるリサイクル（リサイクル原材料を別のかたちにして利用）
サーマルリサイクル：リサイクル原材料を利用して熱として回収するリサイクル

主な廃棄物	リサイクル手段
脱水土泥	堆肥化
バルク	燃料
廃粉体	堆肥化
ブラゴミ・雑芥	固形燃料
プラスチック	再生プラスチック
ガラス	路盤材
その他	熱回収・路盤材

*掲載データは主力生産拠点（狭山事業所・群馬事業所）の環境データですが、関係会社の生産拠点も含めた全体の96%をカバーしています。

省エネルギー

コーセーは2008年度も、引き続き無駄なエネルギー消費をなくし、地球の温暖化防止に企業として取り組むことを基本方針とした活動を行ってきました。

目標（環境指標）

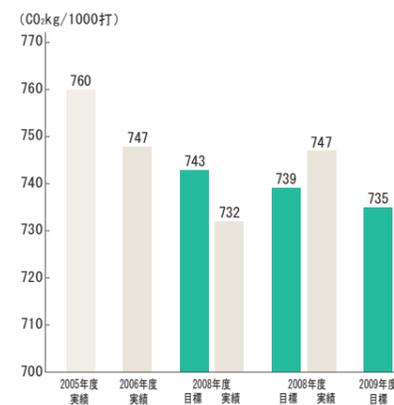
生産段階における二酸化炭素（CO₂）の排出量を、2009年度までに2006年度レベルの98.5%（原単位）にする3ヵ年計画を策定し、省エネルギー活動を推進します。単年度単位の削減目標は毎年0.5%です。

2008年度の実績

2008年度は3ヵ年計画の2年度目にあたり、目標としたCO₂排出量 739kg/1000ダース（0.5%減）の計画に対して、実績は747kg/1000ダースと目標達成率が98.9%という結果でした。この要因は電力の二酸化炭素係数値の悪化によるもので、エネルギーの実使用量は前年以下でした。

二酸化炭素換算した場合のエネルギー使用量の現状と今後の目標

原単位二酸化炭素排出量 (kg/1000ダース)



エネルギー使用量の現状と今後の活動

生産部門におけるエネルギー使用量は、省エネルギー活動の展開によって減少を続けてきましたが、最近若干増加傾向にありました。その理由は、生産量にかかわらず工場の稼働に必要な光熱費が固定的であり、生

*掲載データは主力生産拠点（狭山事業所・群馬事業所）の環境データですが、関係会社の生産拠点も含めた全体の96%をカバーしています。

の結果、大幅な燃料削減だけでなく、CO₂の削減にもつなげることができました。また、狭山事業所では、主力エア供給設備を省エネタイプのものにかえて使用電力量を低減させました。さらに、生産部門で働く従業員に対して省エネ意識、環境負荷への意識を高める活動を継続して行うとともに、職場パトロールを定期的実施して空調や生産設備、厚生施設などに無駄な部分の改善に努めています。

省エネルギー運動を組織的に展開

コーセーでは企業の社会的責任の一環として、環境への影響を配慮し、2000年度に群馬工場、2002年度に狭山工場、2003年度に関係会社の工場と狭山事業所の物流部門でISO14001の認証を取得しました。省エネルギー活動に組織的に取り組み、単に監視やチェック活動だけでなく、建屋や構造設備などのハード面と運用するソフトの両面から省エネルギー技術を導入しています。また、新たな設備の導入、既存の構造設備の点検・改造に関しても、一定の基準を設けて可能な限り環境への配慮を実施しています。



天然ガスボイラーを導入

2008年度の省エネルギー活動事例

2008年度は環境負荷低減活動を推進するため、大規模な設備投資を実施しました。中でも群馬事業所では、ボイラー設備を灯油使用から天然ガス使用のものにかえて燃料転換を行いました。こ



省エネ型コンプレッサーを導入